

Before



## 健康的な肌色にしたい

窓から柔らかな光が差し込んでいる室内での撮影。光の条件は良く顔に嫌な影もない。カメラのホワイトバランスはオートで撮影しているが、周囲の壁などの色が反射し、全体的に肌色が緑色っぽくなってしまっている。もっと赤味があり健康的な肌色にするように修整を行いたい。

使用するツール

●RAW現像（色温度/色かぶり補正/露光量/白とび軽減/明瞭度）

STEP

1

## ホワイトバランスで緑かぶりを取り除く

顔全体にかぶってしまった緑っぽい色を、「ホワイトバランス」で補正する。スライダを動かして調整するのだが、肌色の補正は微妙なので、スライダで調整しにくい場合がある。そんな時には「色温度」の表示部分に直接数字を打ち込んでみるのもいい。この段階では赤味を付けるのではなく、色かぶりだけを取り除くようにする。



スライダでの色温度調整は50単位で増減するため、より微かな調整は直接数値を入力する。



カメラ キヤノン EOS 5D  
 レンズ EF24~105mmF4L IS USM  
 モード 絞り優先オート (F4)  
 WB オート  
 感度 ISO200  
 +/- 補正なし  
 撮影地 神奈川県・横浜市

# 人の肌の色かぶりを綺麗に直す

ポートレート

人物ポートレートでは肌の色合いが重要なポイントだ。青白く写ってしまったり、あまり健康的には見えない。特に日本人の肌の色の場合、少し赤味があるほうが健康的に見える。撮影時に人物の肌の色合いが綺麗に写るようにホワイトバランスを調整することが、肌色を綺麗に再現するためのファーストステップとなるが、被写体の周囲の状況や光線状態によっては正確なホワイトバランス調整が行えないこともある。

細かな修整はRAW現像で行うのが現実的だ。RAWデータで撮影した人物ポートレートのであれば、ホワイトバランスの調整、色かぶり補正を行って人物の肌色はだいぶ改善される。また、人物の顔にハイライトがある場合にも、白飛び補正によって抑えることができる。とはいえ、肌色はレタッチしにくいもののひとつ。最大限の注意を払いながら行う。